

第12回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成25年2月26日（木） 14：00－15：00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、中須賀委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

山本内閣府特命担当大臣（宇宙政策）、西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官

4. 議事録

山本大臣から、以下のような挨拶があった。

- ・縦割りの弊害を排除して、政府一丸となって推進する必要があることから、戦略的予算配分方針の一層の充実など司令塔機能強化が重要。
- ・宇宙基本計画の着実な実施に向けて、宇宙産業を国際競争力のあるものとし、我が国経済再生に貢献する産業とすることが重要。
- ・本日は4つの部会を新たに設置することを議論して頂くが、今後とも自由闊達な議論をお願いしたい。

(1) 新たな宇宙基本計画の決定及び総理指示事項について（報告）

事務局から資料1に基づいて報告を行った。

(2) 独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）中期目標（案）について（報告）

事務局から資料2-1及び資料2-2に基づいて報告したところ、以下のようなやりとりがあった。

（以下、○委員発言、●事務局発言）

○宇宙基本計画は、必要に応じて随時見直しを行うこととされているが、中期目標についても、こうした主旨は文言として入れないのか。（山崎委員）

●中期目標は、行政上の判断として必要に応じて変更できるため、特段文言上明示していない。(西本室長)

○政府とともに、JAXAも衛星やロケットの開発に際して、ユーザーニーズや開発シーズの情報収集を行うべきである。(中須賀委員)

(3) 今後の宇宙政策委員会の進め方について(案)

事務局から資料3-1から資料3-5に基づいて説明したところ、以下のようなやりとりがあった。

○航空分野は宇宙政策委員会の所掌外ではあるが、宇宙輸送戦略に関連して、技術的関連が多いことから、宇宙輸送システム部会でも取り扱ってほしい。(山崎委員)

○全体的なスケジュールはどういったものを想定しているのか。(山川委員)

●基本的に来年度の予算に関係するところについては概算要求までには結果を出す必要があるため、宇宙輸送システム部会については、6月ごろには中間報告を出すことを考えている。(西本室長)

○各部会のアウトプットは、予算の重点化、戦略的配分方針のためのインプットとなるのか。より長期的な検討を行う部会については、そのタイムラインも含めて議論するという事か。(山崎委員)

○宇宙科学・探査部会に関しては、長期的な方針や、学術を目的とした探査等をどのように評価するのかといったことを審議する部会であると認識しているが、資料3-4には本部会の検討事項として「我が国における学術を目的とする宇宙科学・探査の研究の動向」とあるが、「動向」とはどういったことなのかということについての部会としての取り扱いは、今後検討が必要である。(松井委員)

○宇宙科学・探査部会や宇宙輸送システム部会でも世界の動向調査を行うとのことだが、調査分析部会と重なる部分についてはどうすればいいのか。(中須賀委員)

●重複の無いように部会同士で相談しながら進めていただく予定である。
(西本室長)

○調査分析部会は、安全保障分野における世界の動向調査も行ってよいのか。(中須賀委員)

●当然行っても良い。(西本室長)

○部会には、宇宙政策委員がオブザーバ参加できるようにすべき。(松井委員)

○部会として調査やヒアリングを行いたい場合は、事務局を通じて相談するのか、直接関係機関などに依頼するのか。(山崎委員)

●事務局を通じて相談、依頼する形としたい。(西本室長)

宇宙政策委員会の今後の進め方及び部会の設置(資料3-1~3-5)については、委員会として了承された。その後、部会長に内定した委員から以下のような挨拶があった。

(調査分析部会)

○情報が無いと戦略を立てられないことから、戦略の立案に必要な情報はしっかり集めていく。日本のなかにある程度情報がばらばらになって存在するのであろうが、これらを集約して分析できるようにはなっていない。まずはここから整備していく。(中須賀部会長)

(宇宙輸送システム部会)

○宇宙輸送システム部会長は非常に責任が重いことを認識している。宇宙輸送システム、特にロケットについては、宇宙開発利用の根幹であるとともに、安全保障や宇宙産業の基盤であるとも考えている。調査分析部会とも連携して、正確な情報を収集したうえで、中長期的なスパンで、戦略性と国際競争力という観点から議論を重ねていきたい。(山川部会長)

(宇宙科学・探査部会)

○これまでの宇宙政策委員会でも、宇宙科学・探査分野の議論は一番質問として頻繁に出ており、こういったことを早急に議論して、方向性を出

していく必要があることから、この部会が設置されたものと認識している。学術に関しては、文部科学省のなかの審議会で議論されているが、学術のなかでの重点分野を含めた長期的な方向性を議論していく必要がある。また、学術的な探査とそうでないものをどう切り分けていくかといったことなど、検討すべき課題がたくさんあるため、この部会では、こういったものを優先的に議論していくべきかといった議論から始めていきたい。検討課題をリストアップして、早めに進めていきたい。(松井委員)

以上